

2023年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会副会長／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

昨シーズン花粉飛散総数は、スギが平年値（直近10年間の平均値）3,070個/cm²に対し1,900個/cm²、ヒノキは平年値1,510個/cm²に対し2,070個/cm²で、スギは平年以下、ヒノキは平年以上の飛散となり、ヒノキがスギを上回るという結果でした（図1）。今シーズンを迎えての平年値は、スギが3,050個/cm²（図2）、ヒノキは1,685個/cm²となります。

今シーズンも、定点木の雄花の着花状態による、従来どおりの方法で予測しましたところ、スギ雄花は多く着いているため（図3、4）、4,000個/cm²程度の総数となりました（図5、6）。しかし、図5の○で囲んだ部分のように、このあたりの着

花率でも実測値は3,000個から6,000個以上と、年により大きな差が認められています。果たして、どのような結果になるのでしょうか。ちなみに、過去の予測値と実測値の比較を図7に示します。

一方、ヒノキの花芽も比較的に目立つように思われました（図8、9）が、ヒノキ花粉の飛散は毎年のことながら蓋を開けてみないとわかりません。

新型コロナウイルス感染症も未だに先行きが不透明な状況です。コロナに対しては、屋外ではマスクは不要とも言われるようになりましたが、花粉症はそうはいきません。しっかりとした対策を講じましょう。

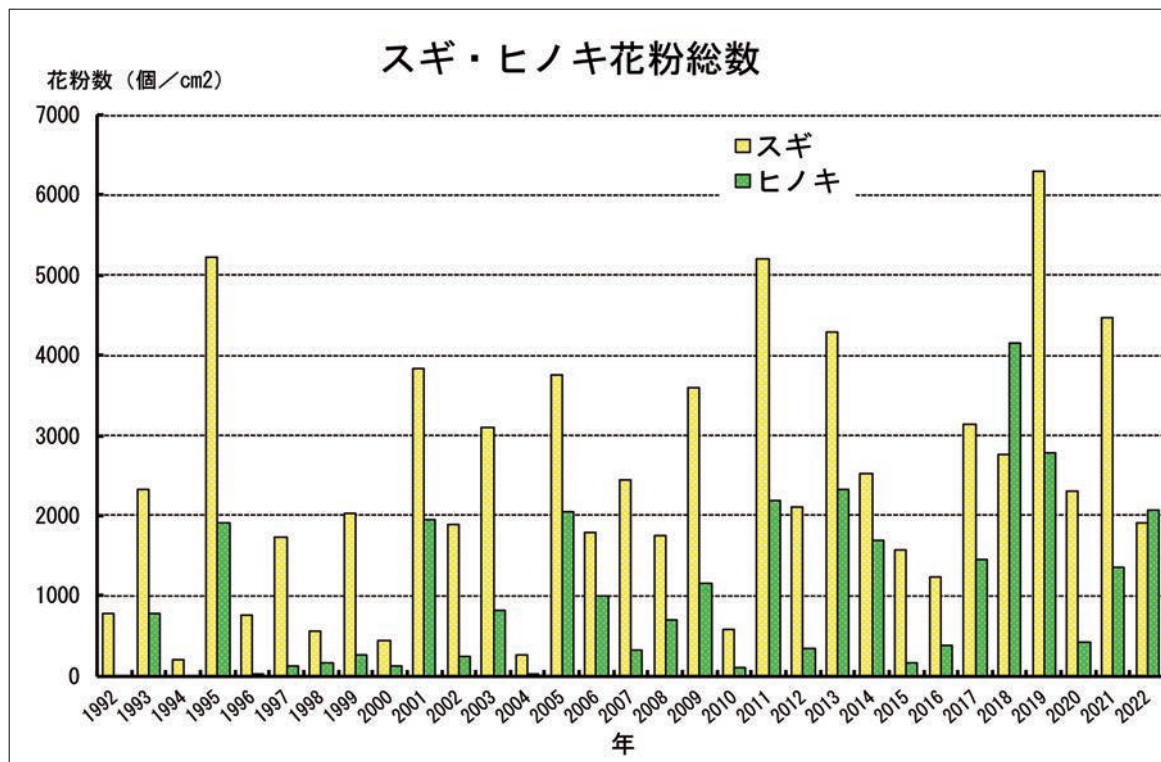


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

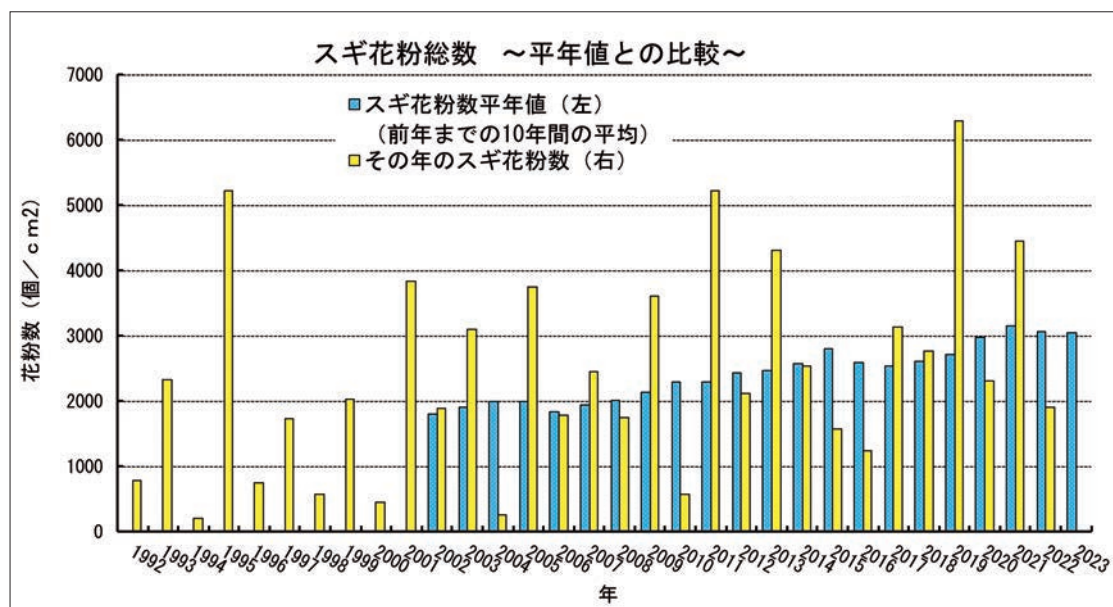


図2 2023年のシーズン前までのスギ花粉総数の平年値



図3 km地点のスギ (2022年秋)



図4 mt地点のスギ (2022年秋)

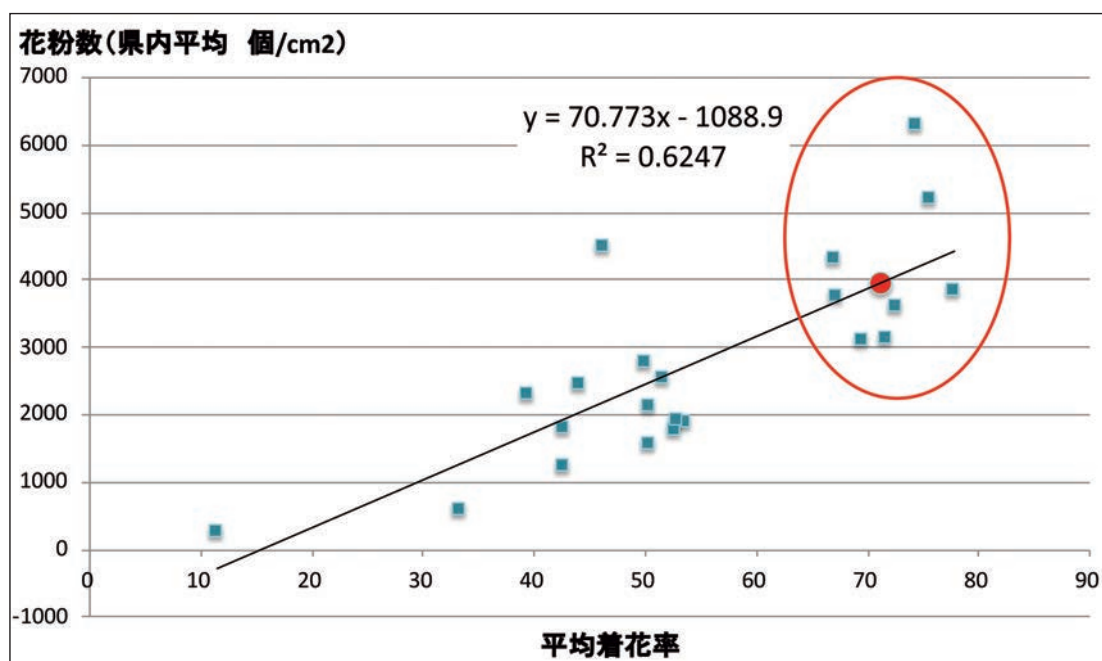


図5 スギ雄花の着花率とスギ総数の回帰式による予測 (2023年)

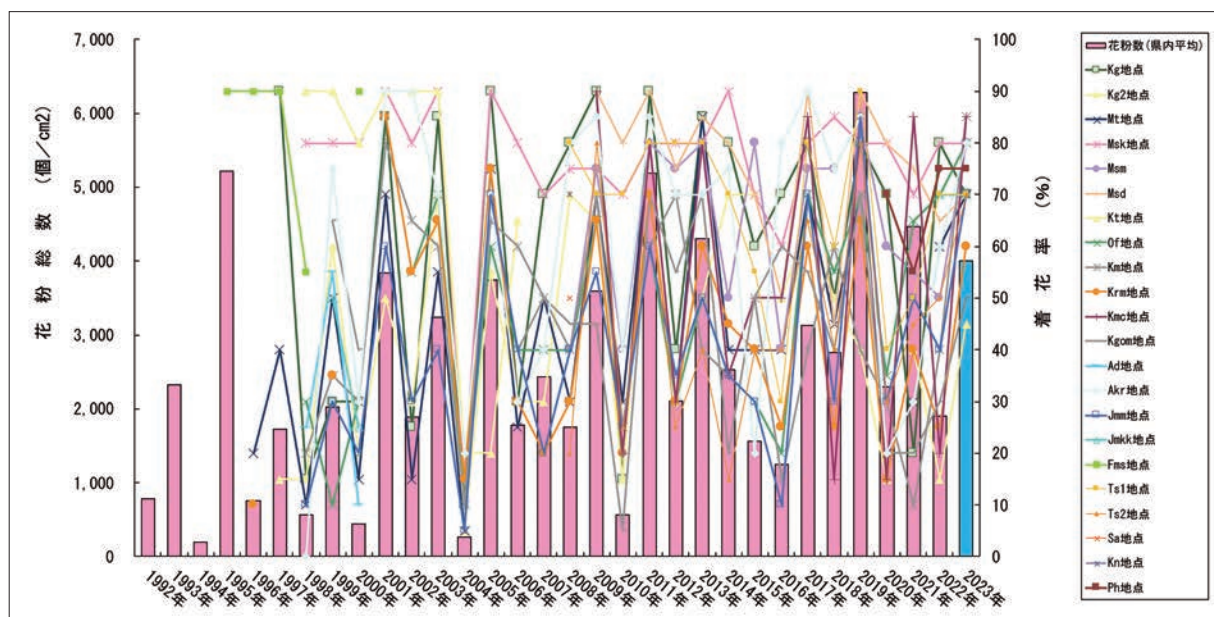


図6 年別のスギ雄花の着花率と花粉総数の比較

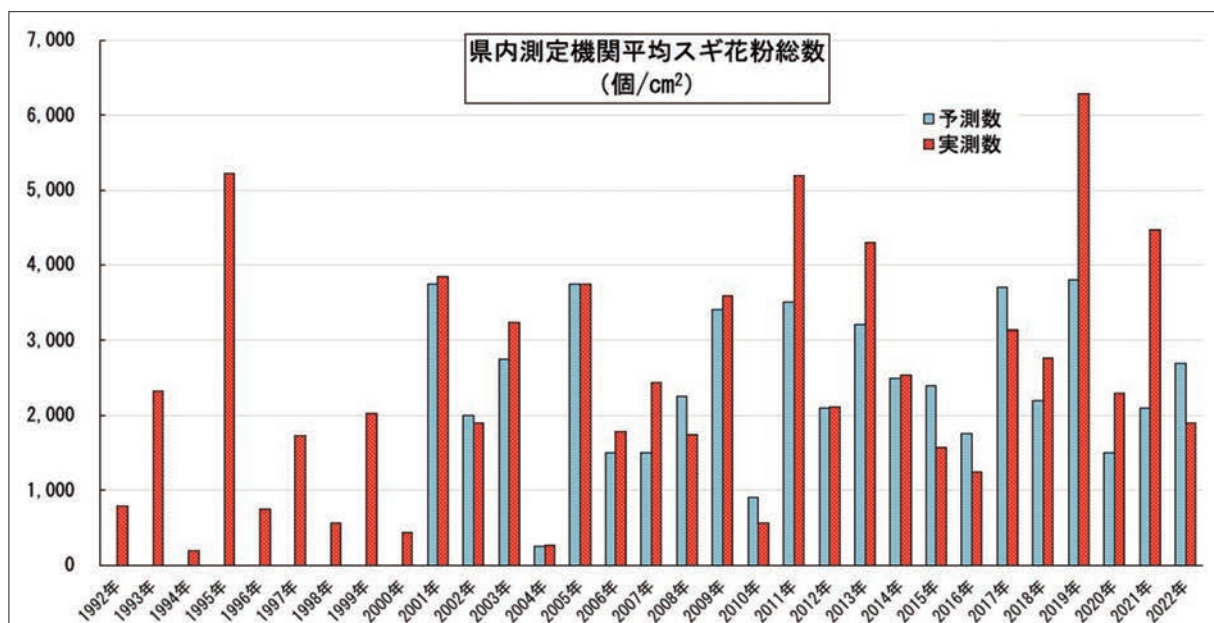


図7 予測値と実測値の比較



図8 mt地点のヒノキ(2022年秋)



図9 okg地点のヒノキ(2022年秋)